

結

京丹後

京丹後市障害者相談支援事業所 結

京丹後市峰山町杉谷 770 番地

0772-69-1040

発行責任者 管理者 小谷 美紀

第1号 2017. 7. 1

新たに

福祉と私

長年に渡り福祉に携わり、
京都府北部の福祉事業を
創ってこられた方々を
ご紹介します。



玉岡 泰久さん

(社会福祉法人 よさのうみ福祉会 元職員)



徳島県出身で、はじめは大阪で薬のセールスの仕事に就きました。通勤の際に年老いた母親が障害を持った子の車椅子を押して通所先に預けに行かれる姿に出会い、福祉施設に関心を持ちました。27歳の時に見学へ行った先である、大阪の障害児入所施設「すみれ愛育館」に就職し6年を過ごしました。

結婚相手が大宮町の出身ということもあり、その近くでの就職を考えて、昭和53年3月に結婚をし、4月に無認可の峰山共同作業所に就職をしました。当時は運営資金が少なく、支援学校（元養護学校）の寄宿舎の仕事も兼ねていました。妻は乳児院の厨房職員として働きました。また、大阪に居た頃と同職の若い職員に声をかけ「何もないけど夢があるよ」と誘いました。その年、全国障害者問題研究会（全障研）の名古屋大会で、全国から集った、運営資金や多くの問題を抱える無認可の作業所の関係者が一致団結して、「きょうされん」が誕生しました。きょうされんの部会と作業所の陶芸作業の仕事が主な活動となり、仲間の人達の自立へ向けて就労に取り組み、このことも活動の柱となりました。そうして、27年間勤め退職しました。

次々と新しい作業所が設立し、地域の活動が実り、無認可から認可施設となり、障害者の親亡き後の生活の場として、「夢織りの郷」を設立しました。その後、かがやきの杜のグループホームの職員として9年間勤めました。その生活の中で、日中では見られなかった孤独からくる不安な仲間の姿を見て、仲間の人に寄り添う姿勢で信頼関係を作ってきました。

私も息子に障害があり、いろいろな思いを抱えていますが、家族会があったことでしんどさを受けとめていただけたと思います。今後、精神医療の発展や地域格差のない訪問医療の充実が図られ、家族が一人で抱え込むことなく安心して生活できる社会になって欲しいと望んでいます。

NEW

京丹後市立の病院で新たに

重症心身障害児（者）

ショートステイ利用支援事業

が始まっています！



平成 28 年 4 月に京丹後市の市立病院で重症心身障害児（者）ショートステイ利用支援事業が整備され、制度としてスタートしました。今回市立病院でのショートステイが始まってから初めての受け入れをしていただいた **久美浜病院** さんにお話をうかがいました。

★窓口は連携室ということで、すべての連絡調整をしていただきましたが、いかがでしたか？

れ 今回は「困っている!!」という連絡があつて日程も迫っていたので、「もう、や
んけい室 らなしやーない!どうにかなるだろう!」という気持ちでした。各担当に相談
したときに、みんなが「受けよう!」ということで、動き始めました。

★病院全体で準備をしていただいたんでしょうか？

か 空床利用の制度ということで、どの病棟も受け入れについては意識をしていま
んごぶ したが、話し合いを行い、職員がゆっくりと関わることができ、ご本人にもゆ
つたりした時間を過ごしてもらえるところということで療養病棟での受け入れの方向で
話を進めました。

平成 26 年から受け入れをされている北部医療センターにもみんなで勉強に行きまし
た。窓口や調整は連携室、ご本人のケアは病棟、事務のことは事務、とそれぞれが専門
分野で動くので安心して任せたという感じです。担当者がその分野の専門知識から、必
要な準備や、予想できる問題などを洗い出し、共有し、準備をしました。

しんどさや、違和感訴えることが難しい方をお預かりするので、ご家族や、普段から
関わっている支援者と、事前に話をしておくことは大事にしましたね。親御さんが来られ
た時、すごくほっとした顔をされ、「安心しました」と言っておられたのを覚えていま
す。

★実際受け入れをされた現場では、不安はありませんでしたか？

び 今回、重症心身障害の人を初めて受け入れるということで、病棟内ではどうや
ょうとう ってケアしたらいいのか?何かあったときには?という声もありました。
いざ受け入れをしてみると、利用者の表情が緩んだり、一緒に笑ったり。そのような関
わりの中で、「もっと知りたい!」「自分で勉強に行ってきた!」「ご本人が気に入りそう
な CD 作ってもって来てもいいですか?」など積極的な声が聞かれるようになりました。
今度病院から2人、大阪である重症心身障害者ケアのセミナーに派遣し、私たち責任者も
自費で行くんです(笑)

★入院ではなく短期入所ということで福祉事業所との連携もありましたがいかがでしたか？

び 今回が初めての受け入れで、病院から通所をされるということもあり、最初は段
ようとう 取りがうまくいかず行き違いもありましたね。でもそんな中で、もう少し他
事業所のスタッフに声をかければよかったね、など前向きな意見を現場のスタッフが持
っていたのは心強かったです。利用者さんのことを考えると、やっぱりできるだけいつ
も行っている通所事業所に行ってほしい、環境が大きく変わらないようにしてあげたい
という気持ちがありました。

普段通っている生活介護事業所から、病院に食事介助などの訪問支援に来てもらっ
たり、利用者の体調を考慮しつつ、通える日はできるだけ生活介護事業所に通ってら
っています。

★相談をさせていただいたときに、あっという間に内部、外部との連携を図っていただいて、体制が整った印象があ
りました。丹後の医療・福祉の熱いマインドに感動しました。

れ 赤木病院長がいつも「困った人は助けてあげなさい。」と言われていて、職員
んけい室 みんなの意識の中にそれがあります。地域医療連携室の担当者は訪問看
護を経験していて、地域の状況を見てきています。高齢の両親が、医療的ケアの必要
な重度の障害のある子どもさんをお家で見られていたり、いろいろなケースに触れる中
で、在宅介護の大変さを深く理解することができました。丹後では短期入所などの地
域資源が限られています。準備期間が十分に取れなくても、わからないことが手探り
になったとしても、実際にそうしながら受け入れ、支えていかなければならない状況があ
ります。「困った人がおられたら、断らない！」そういう姿勢でやっています。
ここは訪問系の機関が同じ場所で仕事をしているので、困ったこと、苦情などいつでも
共有できる環境にあります。普段からのスタッフ同士のかかわりの中で、話しやすい環
境が作られておりそれもよかったと思います。

使いたいときは？

担当の相談支援専門員を通して、地域医療連携室に申し込んでくださいね。



ふれあいフェスタ

2017



6月11日(日) 桃山の里 ふれあいフェスタが開催されました。

今年のテーマは「**広げよう笑顔つなごう未来へ**」

毎年この時期に開催されているふれあいフェスタは今年で10回目を迎えたそうです。

来場者 約800人 ボランティア 約 200 人(前日含む)

12店のフリーマーケットブースと、10店の模擬店(やきそば、からあげ、ソフトクリームなど)授産の店舗、にはお客さんがいっぱい!!

舞台では、仲間のみなさんはもちろん、地域の団体のステージがあり、快晴の会場には、子どもさんからお年寄りまで様々な年齢の方が集っていました。どの人も笑顔にあふれ、会場の熱気にパワーをもらえます。

毎年楽しみにされている方も多く、特に今年はいくさんの高校生ボランティアの方が来られていました。学生ボランティアさんにお話を聞くと、「高校一年生の時から参加しています。ここで別の学校の人も友達になりました。地域の中でいろいろな人と一緒に活動できて、勉強になります。」とのこと。

先生からお話をうかがうと「すごく人気があって、教師が声をかけなくても、自然に生徒が参加したいと集まってくるのです。」とのこと!!

仲間の方を中心に地域のみなが集まり楽しむ一日。そんな中で、地域の若い人たちが頼もしく成長される姿に、つながりの大切さを実感しました。



ごあいさつ

前回まで、丹後圏

域3つの結が共同

で発行しております

した、ニュースレタ

ーですが、この度、

京丹後結バージヨ

ンに生まれ変わりを

しました。発行は年4

回を目指して、細々

と続けていきたい

と思っております。

どうかこれからも、

支援センター結を

よろしくお願い致

します。

これからも、皆さ

んとたくさん繋

がれますよう

に……

